

第2回天王台南地区課題別地域会議（防災・防犯）議事録

1. 開催日時：平成28年2月14日（日）13：30～16：15

2. 場 所：近隣センターこもれび 多目的ホール

3. 参加者： 53名

【自治会】24団体 36名

泉自治会長、ひまわり会自治会長、笹山町会自主防災会副会長、我孫子市天王台自治会長・会員、あびこ天王台ハイツ自治会長、天王台四丁目自治会副会長、パークハイツ我孫子台自治会長、グリーンコーポ天王台管理組合副理事長、天王台十三自治会長、天王台西自治会長、東高野山自治会長・副会長2名・ときわ自治会長代理、岡発戸新田自治会長、東我孫子区自治会区長・副区長2名、大久保町会長・会員、大久保台自治会長・副会長、滝前自治会副会長・監査、アベニュー高野山自治会副会長、小暮町内会会長代理、高野山自治会監査役、早稲田地区自治会長・副会長、藤和天王台ハイタウン自治会長・副会長・会計・幹事、天王台北自治会長、ヒルズ我孫子ガーデニア自治会副会長

【こもれびまちづくり協議会・地域会議推進委員会】2名

委員長、副委員長

【防災分科会】3名

座長、事務局2名

【その他の分科会】7名

座長3名、事務局3名、委員1名

【我孫子市】3名

市民生活部市民活動支援課2名

市民生活部市民安全課 1名

【その他】2名

こもれびまちづくり協議会委員1名、天王台北地区まちづくり協議会会長

4. 議事

（1）議事次第についての説明（推進委員会副委員長）

（2）推進委員会委員長挨拶

天王台南地区では、防災活動を活発に行っている自治会や、これから活動しようとしている自治会も多数あります。本日は自主防災会について経験豊富な西山町会防災会会長のお話を参考にさせていただきたいと思います。私から1点お願いとして自治会の多くは任期が4月交代ですが、交代の際は確実な引き継ぎと地域会議担当の役員さんを決めて戴ければと願っています。

(3) 市民活動支援課次長挨拶

第2回天王台南地区課題別地域会議の開催にあたり、地域会議について説明させていただきます。人口減少や少子高齢化等で地域の繋がりが弱くなっている現状を踏まえ、個々の団体が地域活動を行っていますが、横の連携が取れていないことから、連携強化を図る目的でまちづくり協議会が中心となって地域会議を発足させました。今回は防災等の具体的話し合いや悩み事等の意見を出し合い、災害発生時の際は自信を持って「大丈夫だ」というような活発な意見交換が出来ればと願っています。

地域会議は、1回で終わるものではないので、今後も継続して地域の課題を出し合いながら意見を共有し、「暮らしやすい安全・安心なまちづくり」に向けて、一緒にやっていきたいと思っています。

(4) 講演：「柏市西山町会防災会の活動」について(パワーポイントにて説明)

講師：柏市西山町会防災会会長 清水省二氏

1) 西山町会防災会の活動についての講演内容

- ◎災害対応として
- ◎減災啓発
- ◎町会・地域・学校への協力
- ◎要援護者登録制度

2) 防災会・防災活動のポイントについて

- ・平常時は、「**自分の命・家族の命は自分が守る**」→減災啓発活動を重視しています。
- 災害時は、「**外からの応援が期待できるのは、3日目から!**」その3日間町会・自治会は何をすべきか? それには・・まず**自分の命を守る訓練**を実施することが大事です

(5) 講演内容のキ-ポイントとして

1) 災害対応活動について

- ・災害時に誰もがすることは、
 - ⇒ まず、自分と家族の安全確保・安否確認
 - ⇒ ご近所の安否確認/⇒ ご近所の救助・避難補助
- ・では、町会・自治会は何をすべきか?
 - ⇒ 災害対策本部の立ち上げ
 - ⇒ 町内被害状況の把握
 - ⇒ 仮救護所の設置・応急手当(負傷者の救助、仮救護所への搬送)
 - ⇒ 避難所への誘導~~炊き出し~~

2) 安否確認訓練について

- ・阪神淡路大震災の時、救出された人の95%以上がご近所・家族に助け出されました
そこで、平成14年から「**大地震!おとなりは大丈夫?**」・・・ところが思いがけな

い反対意見が・・・男性から「訓練は、消防車を読んで避難訓練をやればよいのでは」との意見が出た時、女性から「**安否確認が大事でしょ、訓練は、安否確認から始めましょう**」との声があがりました。

3) 安否確認訓練の内容について

- ・住民による向こう三軒両隣の安否確認
- ・住民による町内被害状況調査と本部報告
- ・災害対策本部の設置・仮救護所の開設
- ・本部による被害状況の把握
- ・避難所運営訓練／避難補助・救助活動
- ・避難所（小学校体育館）への避難誘導

4) 安否確認訓練の実施について

- ・実際の災害時、報告がないところについては、無事なのか、留守なのか、被害にあって応答出来ないのか不明・・・町会の防災対策本部は、このすべての家に人を出して安否確認を行う必要があります！そこで、ご近所と本部の確認作業を効率よく行うために無事だった家に掲示するプレートを作成し、全戸配布しました。

（毎月1日～3日間「防犯の日」とし、プレートを玄関ドアに吊るして意識改革を図っている）

■訓練日までの用意は、

- ・K-N-e-t登録者に担当支援者と要援護者を個別に連絡します。
- ・全戸に安否確認表を配布し、被害想定札の掲示依頼をします。

5) 資機材保管場所について

- ・公園4ヶ所と会館倉庫に保管し各物置には責任者名を明記して保管しています。
- ・停電時にも自家発電（発電機）により電気が使えるようにしています。
- ・**ライフセイバーボトル（米国製の濾過装置:4000ℓ）**を3つ用意しています。

6) 減災啓発活動について

◇簡易トイレの一括購入／消火器プロジェクト／家具固定隊の結成／消火用水パックスの防災会員宅への設置／ダンボールで水を運ぶ体験／100円ショップ防災用品展

7) 町会・地域・小学校への協力について

- ・防犯パトロール・・・徒歩で週2回、車両で週1回実施
- ・ワンワンパトロール・・・町内を愛犬と一緒にパトロールを実施。

8) 避難行動要支援者対応について

- ・平成18年から取り組み、柏市が民生委員等を通じて、災害時に手助けが必要な希望者を募り、名簿を町内に下ろしました。
- ・町会・自治会は支援者を探して、要援護者とマッチングさせました。

9) 柏市防災福祉K-Netの取り組みについて

- ・西山町会のK-Netの考え方は・・・「支援を希望する特定の人のところへ、事前に決めておいた人が安否確認に行くという制度」と理解してください。
- ・支援者については、西山町会では、支援者は「安否確認のみ」を依頼しています。

10) その他の訓練について

- ・発電機、チェンソーは実際に動かし、訓練終了後にはガソリンは全て抜き取ります
- ◆災害時は、何よりも大切なことは、最初の3分を生き延びること。命が助からなかったら何も始まりません！**

(5) 自治会からの質問事項

◆西山町会防災会総務（古池佳子氏）談

よくある質問は、防災訓練を行っても長続きしない。消火器訓練等で終わってしまうという意見が多く聞かれますが、**災害時に何が起きるか想定し、一つひとつ順番に対応訓練を続けて行くことが大事です。**西山町会の防災会は今年で15年経過しましたが、まだまだやることが一杯あります。私から、皆様をお願いしたいことは、まず**安否確認訓練をやってください。**以上です。 ※（第2回地域会議柏市西山町会防災会の活動資料参照）

(6) 防災アンケート結果報告（防災・防犯分科会座長）

【地域防災に関する「39自治会アンケート」結果について】

《アンケート実施概要》

- ① 目的：地域の防災活動の現状と課題の把握
- ② 調査対象：天王台南地区39自治会（防災関係担当者と相談のうえ回答依頼）
- ③ 実施時期：平成27年10月中
- ④ 調査方法：アンケート調査票の配布・郵送回収
- ⑤ 回収結果：39自治会長に配布、36自治会回答、回収率92%

問1 貴自治会には、自主防災組織（防災会）はありますか。

☆回答した自治会の約半数（52.8%）が自主防災組織（防災会）を結成している。

選 択 肢	回 答	
自主防災組織はあります	19	52.8%
自主防災組織はありません	17	47.2%
合 計	36	100.0%

問2 「問1ではありません」と回答された自治会に今後、自主防災組織（防災会）を結成する予定はありますか。

- ☆ 自主防災組織は『今後、結成の予定はありません』と回答した15自治会（88.2%）のうち12自治会（80%）が100世帯未満の小規模自治会であった。

選 択 肢	回 答	
今後、結成の予定はあります	2	11.8%
今後、結成の予定はありません	15	88.2%
合 計	17	100.0%

問3 「問2ではありません」と回答された自治会に結成されない理由は何ですか。

- ☆ 「人手不足」「担い手不足」「役員の交代、継続的活動が困難」「世帯が少なく不要」と回答した自治会が全体で79.3%を占める。
- ☆ 少子高齢化社会の中で、「自助」「共助」「公助」の関係が強く求められる。
- ☆ 住民ひとり一人が互助の精神を持って、日頃からのご近所付き合いが防災活動の第一歩である。
- ☆ 「防災活動はできることから始めよう」を合言葉に住民の全員参加が望まれる。

選 択 肢	回 答 (複数回答)	
人手不足	7	18.8%
担い手不足	9	22.9%
役員交代、継続的活動が困難	9	18.8%
住民の関心の低さ	2	6.2%
資金不足	2	8.3%
世帯が少なく不要	8	18.8%
その他（理由）	3	6.2%
合 計	40	100.0%

※その他（結成しない理由の内訳）

- ・ 高齢者が多い。時間が取れない。立ち上げ後、継続的に活動を維持できるか疑問。
- ・ 防災担当役員はいるが組織化されていない。組織に対する認識が低い。
- ・ 入居者は学生が多く入退居もあり組織を作ることは難しい。

問4 貴自治会では、下記防災活動について、何が重要と思われますか。①～⑨の設問に（重要度：A>B>C）で答えて下さい。（※ Aは重要度が一番高い。）

① 自治会内の防災に関する下記の基礎調査について

◇災害時に安全な場所に避難を必要とする要援護者の調査について

- ☆ 要援護者の把握が最重要であると認識している自治会は全体の44.4%を占めるが、

B・Cの認識度が低い自治会も半数（55.6%）を超えている。

選 択 肢	回 答	
A	16	44.4%
B	14	38.9%
C	6	16.7%

◇災害発生時に備えて、地域の危険災害箇所などの調査について

- ☆ 地域の危険災害箇所の把握が最重要であると認識している自治会は全体の27.8%と低く、危険箇所の把握を知らせる啓発活動の重要性が求められる。

選 択 肢	回 答	
A	10	27.8%
B	14	38.9%
C	12	33.3%

② 自治会員への防災知識について、下記の啓発活動は必要と思いますか。

◇災害時、まず「自分の命は自分で守る」「自治会の安全・安心は自治会で守る」等の防災意識の周知徹底について

- ☆ 防災知識の普及、啓発活動が必要と回答した自治会は69.4%と高い数字を示している

選 択 肢	回 答	
A	25	69.4%
B	9	25.0%
C	2	5.6%

◇市、市民活動団体の主催する防犯セミナーなどへの参加について

- ☆ 防犯セミナー等への参加意識が低い（B・C合計83.3%）自治会全体に対するセミナー等への参加意識を盛り上げていくことが重要である。（啓発活動）

選 択 肢	回 答	
A	6	16.7%
B	25	69.4%
C	5	13.9%

③ 自治会区域の防災マップの作成について

（一時避難経路、避難場所、避難施設等の地図の作成と配布）

選 択 肢	回 答	
A	13	36.1%
B	13	36.1%
C	10	27.8%

④ 自治会の人達への避難場所及び避難経路の周知について

選 択 肢	回 答	
A	17	47.2%
B	10	27.8%
C	9	25.0%

◇最寄りの避難場所、避難施設はご存知ですか。

- ☆ 避難場所・避難施設の場所を把握していると回答した自治会は全体の91.7%と高い数字を示している。

選 択 肢	回 答	
はい	33	91.7%
いいえ	3	8.3%

⑤ 災害時要援護者対策と支援体制を進めていますか。

- ☆ 要援護者対策と支援対策について77.8%の自治会が『いいえ』と回答、各対策が進んでいない現状が数字に表れている。

選 択 肢	回 答	
はい	8	22.2%
いいえ	28	77.8%

◇我孫子市発行予定の避難行動要支援者名簿をご存知ですか。

- ☆ 我孫子市発行予定の避難行動要支援者名簿について69.4%の自治会が『いいえ』と回答、更なる広報活動が望まれる。

選 択 肢	回 答	
はい	11	30.6%
いいえ	25	69.4%

⑥ 災害時安否確認方法と安心カードの活用について

- ☆ 災害時安否確認方法と安心カードについて52.8%（約半数）の自治会が活用していると回答。

選 択 肢	回 答	
A	19	52.8%
B	12	33.3%
C	5	13.9%

⑦ 防災用井戸の整備と災害時のトイレの確保について

- ☆ 防災用井戸の整備と災害時のトイレの確保が最重要と認識している自治会は全体の55.6%を占める。

選 択 肢	回 答	
A	20	55.6%
B	9	25.0%
C	7	19.4%

⑧ 災害に備え必要な防災用資機材の確保・整備・点検について

選 択 肢	回 答	
A	13	36.1%
B	13	36.1%
C	10	27.8%

⑨ 災害時の市、自治会の防災情報の収集と伝達方法の確立について

選 択 肢	回 答	
A	17	47.2%
B	11	30.6%
C	8	22.2%

問5 貴自治会では、防災広報・啓発活動は実施されていますか。

- ☆ 「防災広報・啓発活動」の実施状況で『いいえ』と回答した自治会が66.7%と高い数字を示している。防災に関する更なる啓発活動が求められる。

選 択 肢	回 答	
はい	12	33.3%
いいえ	24	66.7%

問6 貴自治会では、防災訓練は実施されていますか。

- ☆ 「防災訓練の実施」に対し『いいえ』と回答した自治会が66.7%と高い数字を示している。今後は訓練の重要性を再確認するための施策が求められる。

選 択 肢	回 答	
はい	1 2	3 3. 3%
いいえ	2 4	6 6. 7%

問 7 各自治会間の防災活動の情報交換の場は必要ですか。

☆「情報交換の場が必要」と認識している自治会が63.9%を示し、更なる「情報の共有化」を図り、活発な防災活動を展開することが「防災・減災」に繋がる。

選 択 肢	回 答	
はい	2 3	6 3. 9%
いいえ	1 3	3 6. 1%

◇地域防災に関する『39自治会アンケート』結果報告については、既に配布されている資料に基づき説明した。

■ 地域防災に関するアンケート結果及び地域会議の意見交換会のまとめ

1. 自主防災組織(防災会)の必要性について

- 少子高齢化社会の中で、個人や各自治会の防災活動に対する関心は違いがあり、100世帯以下の小さい自治会においては防災組織の結成は難しく、マンション自治会や大きい自治会では、組織はあるが災害時に即応した防災活動体制としての管理ではいろいろな課題がある。
- 自主防災組織として、少子高齢化の中で平日、昼間は男性の不在が多く、高齢者、女性、子供でどこまで対応できるかの課題もある。
- 自主防災組織には、若い方々や女性の参加が少なく、防災会に参加するには出来るだけ負担の少なくなるような楽しい工夫が必要と思います。また、リーダーとなる人の後継者の育成と若者パワーをどう活用など災害時に機能する防災組織体制が課題である。

2. 防災活動について

1) 防災意識の普及、啓蒙活動について(自助の重要性)

- 各自治会の実態にあった防災活動が前提であり、役員等の任期が1年で終わる自治会では、防災セミナーへの参加や防災知識・経験の積み上げができないため防災知識等の啓蒙活動は毎年継続する意識と体制が必要と思われる。
- 避難場所・避難施設等については、各自治会でほぼ周知されているが避難経路の危険個所の把握と周知は重要である。
- 防災マップ等の作成は各自治会の防災環境に応じて実態にあった内容で纏める必要がある。
- 少子高齢化の中で、「自助」「共助」「公助」の関係が強く求められており、住民一人ひとりが互助の精神をもって日頃から近所付き合いが防災の第一歩である。また、人に頼らない自助の重要性を地道に継続して説明する活動が重要である。
- 自治会の無い所や自治会活動(防災、コミュニティ作り)に無関心な人、外国人等に対し、魅力ある活動や災害時の対応に課題がある。
- 阪神淡路大震災や東日本大震災等で被災した方の生の意見を聞く機会を設け、被災時の対応に役立てることも重要である。
- 災害発生時に活動が期待される団体として消防団・自治会・自主防災組織・民生委員等があるが、これらが協力しやすいように平時から交流の場が欲しい。
- 日常の「住民同士の挨拶運動」から始め、お茶会等を通じて行政と絡めて見守り活動や災害時の支援に発展していければよいのでは。

2) 要援護者対策と支援体制と安否確認について

- 要援護者名簿を自治会として所持しているが、使用方法、活用方法に悩んでいる。
- 要援護者対策は必要とされているが現状では支援対策がほとんどの自治会で出来ていない。

今後は各自治会の現状に見合った安否確認方法と訓練等による周知が重要と思われる。

- 我孫子市発行予定の避難行動要支援者名簿については、理解されておらず更なる広報活動が必要である。
- 安心カードについては約半数が活用されているがまだ理解は不十分で周知の必要がある。
- 一人の要援護者に対して、複数の介護する要員が必要ですので要員確保が難しいのではないか

3) 防災訓練について

- 防災訓練は役員・組織が一年交代の自治会や高齢化に伴い、何の防災訓練をやったらいのか判らず訓練を見送ったり、災害時に即応した防災訓練となっていない。
- 防災用資機材保管、防災物置の設置場所において、自治会には共有スペースが少なく物置を他所の敷地の一部を間借りして置いている状況がある。(物が出しにくく、広げるスペースがない状態であり、災害時はかなり手間取る不安がある)
- 防災予算が少ないので、欲しい防災機材を購入できない。保管場所も少ない。
- 災害時に被災実態の把握に難儀している様子が伺えるので防災訓練では「安否確認の方法と実践」を実践することが必要である。
- 少数世帯の自治会等は、近隣自治会との合同訓練を行ってはどうか？
- 自主防災訓練等は、年々訓練参加者が決まっており、減少していく傾向にある。

3. 我孫子市への要望

- 各自治会で防災会を作りなさいと市から要望があるが、紙ベースの防災会を作っても活動しないのは想像がつく。自治会の防災は資機材を揃えたり、防災訓練だけでなく、個々の防災意識を引き出す啓蒙活動が重要である。市や関係団体に要望したいのは、啓蒙活動に使用する我孫子市の災害に対する防災の映像やパワーポイントを作る時は市職員だけでなく市民の意見も取り入れて作成してもらいたい。
- 近年大きな災害で感じることは、市全域のライフラインの早期復旧を想定した計画を立ててほしい。特に我孫子市は飲料水の復旧が遅くなる地域です。非常用の井戸を地域ごとに計画的に掘り、生活用水を確保してほしい。また、非常時のトイレの始末、特に固めた場合の可燃ごみの迅速な回収方法なども考えて欲しい。
- 市の道路課には復旧依頼済みだがマンションの裏手の市道が液状化で傷んだままとっている。布佐だけでなく、天王台地区でも未だに被災が続いていることをご理解いただきたい。
- 市への要望としては、発災前の周知手段として、防災無線等があるが、携帯電話を活用したエリアメールの運用による各地域住民への発信を検討して戴きたい。よって、まちづくり協議会には、市と連携したそれらの支援をお願いしたい。
- 小規模自治会で防災会もない。市から防災組織に「最低限防災に必要なものは何か」を教えてください

4. その他、「防災」についてのご意見・ご要望について

- 災害の避難で空き家になると空き巣狙いの犯罪が発生する。巡回警備が必要になると思われるが、これで完全に防げるか疑問。空き巣対策の検討が必要である。
- 旧住民と新住民の対話や総会への参加が出来ていなかったため、新旧会員全員参加する旨の規約を改正し全戸に配布した。45度の傾斜地にソーラ設備を建設していますが大雨が降った時、土砂災害が起きる可能性がありますので、検討をお願いしたい。

今後の防災・防犯分科会の取り組み方として

- 1) 少子高齢化社会の中で、個人や各自治会の防災活動に対する関心は人により異なりますが100世帯以下の小さい自治会においては、防災組織の結成は難しく自治会の規模に応じた防災環境の把握と防災意識の啓蒙が必要と思われる。大きな自治会においては、組織があるだけでなく災害時に即応した防災活動体制が必要であり、要請があればできる範囲で相談・支援していく。
- 2) 少子高齢化社会の中で、「自助」「共助」「公助」の関係と要援護者の把握の重要性及び我孫子市で作成中の要避難行動支援者名簿の活用方法等の理解を支援していく。
- 3) 依頼があれば天王台南地区の避難場所、避難通路、危険個所等を調査し「安心・安全マップ」の調査・作成を支援していく。(各自治会単位)
- 4) 防災知識の普及、啓発活動として防災分科会が交流の場の設置、情報の発信基地(例：防災セミナー、地域会議ニュース欄等)として、各自治会の防災意識の向上を図る。
- 5) 災害時安否確認方法と安心カードの活用について各自治会と協議し活用方法を考える。
- 6) 防災用井戸の整備と災害時のトイレの確保についての方策、手段を紹介し、各自治会の計画を支援する。
- 7) 防災訓練等については、近隣自治会との合同訓練の調整を行う。
- 8) 各自治会間の防災活動の情報交換の場を設け、分科会として防災ニュースを発信する。
- 9) 各家庭内での安否確認方法についての周知

以 上

作成 神山・山田・戸田